

表面の学校評価項目では、概ね肯定的な評価結果となっています。その中でやや課題が見られる項目（C・Dと回答）について、評価項目ごと以下に記します。

【学校について】

- 教育方針（小中一貫教育・大部小の教育）について分かり易く伝えている。（保護者）昨年よりアップ
- 基本的な生活習慣（挨拶、時間厳守、忘れ物をしない等）が定着している。（教職員）
教育方針等は様々な機会を捉え、よりタイムリーに発信してまいります。
基本的な生活習慣については、具体的に課題を児童と共有し、定着を目指してまいります。

【保護者について】

- 困ったことがあれば、家の人に相談するようにしている。（児童）
- 家庭では会話や食事など関わりを多く持つよう心がけている。（保護者）
- 先生たちは子どもの相談事について保護者と連携を密にしている（教職員）



困ったことを家の人に相談できていない児童が増加しています。児童の健やかな成長には、ご家庭の場が一番重要です。お忙しいとは思いますが、少し心にゆとりを持って言い出せるような雰囲気や大事に、今後もお子さんとのコミュニケーションを図っていただければ有難いです。学校も児童に関する気づきに関して家庭とより連携できるよう、連絡を密に図ってまいります。

【教職員について】

- 一人ひとりの児童をよく理解し、個性を大切にしながら、社会性も育てている。（保護者）
- 困った時やどうしてよいかわからない時、先生に相談すると、きちんと解決してくれる。（児童）
- 子どもの自主性に任せる部分としつける部分のバランスのとれた教育活動をしている。（教職員）
- 子ども理解に努め、子どもたちのトラブルに組織的に対応している。（教職員）

より個を大切に子ども理解の下トラブルに適切に対応し、より社会性が育つよう全教職員共通理解をさらに図り、組織的な対応に努めてまいります。また、子どもの自主性が育つよう教育活動の有り方等見直しを図ってまいります。

【学習について】

- いろいろな先生と勉強すると、勉強がよくわかる。（児童）
- 教職員は児童の理解度を把握し、分かりやすい授業をしている。（保護者）
- 少人数指導や複数指導、教科担任制によるきめ細かい学習の工夫改善により、学習効果を高めている。（教職員）
- 「大部っ子いきいきタイム」や「きらりタイム」を活用し、子どもたちの集中力や脳の活性化を図っている。（教職員）



授業研究を深め、すべての児童にとって効果的な授業となるよう、さらなる努力を重ねてまいります。



【人権教育について】

- 自分の子どもは、相手の気持ちや立場を考えて行動している（保護者）
- 子どもは、人に優しい言葉や相手を思いやる言葉づかいができています。（児童・保護者・教職員）
- 子ども達は、人権を尊重しようとする態度や実践力が育ちつつある。（教職員）

学校では、体験を重視した道徳教育・人権教育を行い人権意識の高揚を図るとともに、日々の児童に見られる課題について、見過ごすことなく迅速に対応することに努めてまいります。教職員の発する言葉は重要な言語環境であると捉え、自らを振り返る姿勢を大事にし、教育実践をしてまいります。

【安全について】

- 子どもは交通ルールを守って安全に登下校したり、危険な目に合わないよう気をつけたりしている。（児童・保護者）

子どもと保護者との意識差があります。子どもの安全な登下校や安全な生活について地域や関係機関とも連携しながら計画的に安全指導に努めてまいります。ご家庭でも重ねてお願いいたします。